



どうして いじめ・差別はなくなるのか？ 強化学習を継続して繰り返すことが大切！

差別を解消するには

生活を共にしたり、学習したりする必要がありま。寝た子を起こすなという人がありますが、決して何もしないで差別は解消されません。交流などを通して共に生活してみると、良さや本当の姿が見えてきます。部落差別は学習することによって、作られた差別であることが分かります。

今回は、別の角度から差別・いじめについて考えてみます。

どうして差別・いじめは

なくならないのでしょうか？

七月のある日、テレビを見ていたら、あるコメンテーターが、「ヒットラーのユダヤ人迫害や関東大震災での朝鮮人襲撃、ある国の大統領が四人の民主党議員に国外へ出るように発言するなど、人間は動物だから、本能的に攻撃したい(やつつきたい)・支配したい(上に立ちたい)」と考える。だからこそ、あおってはならない。人間は、何もしないでいると戦争や差別をする存在である。教育に待つ以外に無い。」という内容の話をされていました。

差別・いじめの本質

人間の根本的本能(本性)の中に内蔵されているものとして、次のようなものがあります。

- 見栄 ● 名誉欲 ● 支配したい
- 争いたい ● 競いたい
- 闘争したい ● 怠けたい

もしも、人間の本能がこのようなものだけであれば、人類はとうの昔に滅んでしまっていたことでしょう。

従って、人間はこのような本能を打ち消す力をも兼ね備えています。

【人間の二大欲求】

① 生理的(臓器発生的)欲求

② 社会的(心理発生的)欲求

- お金・財産が欲しい
 - 他人よりも優れていた
 - 尊敬されたい
 - 軽視されたくない
 - 集団に加わりたい
- このことから、人は誰もが

- 良く見られたい
- 尊敬されたい
- 仲間に入りた

と本能的に思っています。また、脳は次のような行動をすると喜び、ドーパミンを放出します。

【脳が喜ぶ七つの習慣】

① 笑う…人も自分も

② 感謝する…出会いや生きていることに

- ③ ほめる…人も自分も
- ④ つながる…友人を大切に
- ⑤ 祈る…人の幸せを
- ⑥ 信じる…自分を信じる
- ⑦ 語らう…よく話し、良く聞く

このように、人は誰もが

- ほめられると嬉しい
- 人とつながっていると嬉しい
- 仲間と信じ合えると嬉しい…、と本能的に思っています。

これらの欲求と脳の持つ特性をいかした活動を、次の二点で教育や生活の中に継続的に取り入れることによって、差別やいじめは解消していけるものと考えられます。

一点目は、根本的本能を昇華させる活動を多く取り入れることです。人は誰もが生まれながらに持っている、争いたい・競いたい・闘争したい・支配したい、という欲望・願望を、次のような活動を通してうまく昇華することができま。それが、

会話(コミュニケーション)であり、スポーツであり、動物の飼育などです。これらの活動を、思いを正しく相手に伝え、ルールに従い、愛情を持って接する

ようにして、生活の中に取り入れることが大切です。

二点目は、脳が喜ぶ七つの活動や体験(特に学校教育では、ほめる・つながる・語らう)を繰り返す行。脳は、喜びや快感に関する行為をする、神経伝達物質である「ドーパミン」を放出し、その直前にやっていた行動を繰り返そうとします。これを、「強化学習」といいますが、脳が喜ぶ良い習慣を繰り返す「強化学習」することによって、良い習慣が身に着くと言われています。

家庭・学校・地域の教育で

従って、家庭や地域において、も、本能を昇華していく活動を生活に取り入れたり、脳が喜ぶ良い活動や体験を繰り返す行指導を行ったりしていただきたいと考えています。

保護者や指導者が、体罰や虐待・ハラスメントといったことに十分注意し、活動や体験をさせると共に、繰り返す脳が喜ぶ良い実践をするといった教育を行うことが、差別やいじめを解消する大切な方策であると考えま。